

1年1組「特別の教科 道徳」学習指導略案

- 1 主題名 「いつもありがとう」B-（7）感謝
 2 教材名 「ありがとうが いっぱい」
 （出典：光村図書「どうとく1 きみがいちばんひかるとき」）

3 ねらいとする価値について

給食の調理員や交通誘導員など、児童の日常を支えてくれている人に感謝の気持ちをもつ「わたし」の姿を通して、学校や家庭、地域でどんなときに、どんな人にお世話になっているかについて考えさせ、その人たちに感謝するとともに、その感謝の気持ちを言葉などで伝えようとする実践意欲と態度を育てる。

4 本時の展開

○ねらい 感謝の気持ちを言葉などで伝えようとする実践意欲と態度を育てる。

	学習活動（○発問、☆中心発問）と児童の反応（・）	◇指導上の留意点 ※評価
導入	1. 「ありがとう」と言った経験を話す。 ○ どんなときに、ありがとうを言いますか。 ・ 助けてくれた時 ・ 鉛筆をひろってくれた時 ・ 誕生日のプレゼントをもらった時 ・ 一緒にあそんでくれた時 ・ 優しくしてくれた時	◇ 「助けてくれた時」など、発言が抽象的な場合は、「誰から」「どのような時に」など問いかけ、具体的に想起できるようにする。
	どんなどき、どんな人にお世話になっているのかかんがえよう。	
展開	2. 「ありがとうがいっぱい」を読み、考える。 ○ 「わたし」には、他にどんなありがとうがあると思いますか。 ・ けがの手当てをしてくれた時 ・ 壊れた物を直してくれた時 ・ おいしいごはんを作ってくれた時 ・ 家族のためにお仕事をしてきている時 ・ 登下校の見守りをしてくれている時 ・ 学校を掃除してきれいにしてきている時 ☆ みなさんは、誰に、どんなありがとうを言いたいですか。 ・ お母さんに ・ お父さんに ・ おばあちゃんに ・ おじいちゃんに ・ 先生に ・ 習い事の先生に ・ 地域の方に 3. お礼を言いたい人への手紙を書く。 ○ ありがとうを伝えてみましょう。	◇ 「学校」「家庭」「地域」など、それぞれの場面を表示し、様々な人がいろいろなどころで助けてくれていることを想起させる。 ◇ 児童の感謝の気持ちを高めるために、「みんなにできることは何があるかな」と問いかける。 ※ 身近に、自分を支えてくれている大人がいることに気づき、感謝の気持ちを伝える手紙を書くことができたか。 （ワークシート・発言）
終末	4. 教師の話を聞く。	◇ 担任自身の経験を具体的に挙げ、どんなにうれしかったか、どれほど元気になったか、助かったかなどについて話し、より具体的に気持ちを掘り起こし、児童の思いをより深化させる。